



第11号

発行 平成19年1月25日

茨城県立図書館

ボランティア協議会広報委員会

文責 黒沢 英宣

かがやき

目次

ボランティア研修会(10/8) ~ 大里先生の講演を聞いて ~
まなびピアいばらき2006へ参加(10/6~10/8)
いばらき読書フェスティバル2006(10/29)
~ コーヒーの香り流れて ~
~ 折り紙教室 ~
ボランティア見学会(11/18) ~ 「レイク・エコー」を訪ねる ~
水戸西ロータリークラブからの支援金の使途
~ 3つの分野で活用 ~
ボランティアの声
編集後記



ボランティア研修会



大里先生の講演を聞いて

昨年(平成18年)の10月8日、ボランティア研修会において、全盲でありながら、医師国家試験に合格された大里先生の講演を聞きました。

大里先生は大学医学部在学中に視力が低下し、勉強や実習が思うようにできなくなりました。国家試験は時間不足で解答をこなすことが出来ず、不合格となり、医者になることを一度は諦めたそうです。医者になることが夢で、必死に勉強してきたのに、

児童サービス第2・4日曜日班 沢邊 祐依
(高3 川村学園大学入学予定)

その夢をかなえることができなくなってしまったときは、大里先生はどれほど辛かっただろうと思いました。

その後、約20年が経過しました。2001年、医師法が改正され、視覚・聴覚障害者も医師資格を取得できるようになりました。大里先生は、茨城県立図書館の対面朗読サービス、その他の力を借りて、再び医師免許取得のために勉強を始められました。20

年間、医学の学習から離れていたことから、医学書、試験内容が大きく変化してしまったので、困難・苦難続発の状況でした。しかし、2005年3月、3回目の挑戦の結果、見事に合格されました。全盲という厚い壁を乗り越えて、国家試験に再三挑戦し、合格の栄冠を手にしたことは、素晴らしいことだと感じました。また、医学書の対面朗読を続けられた方々も、一生懸命に努力されたのではないかと思います。すなわち、ボランティアの方々の努力、尽力、それを受け止めて必死の精進を続けられた大里先生の素晴らしい成果だったとも言えると思います。

私は2006年9月から児童サービスボランティアを始めました。単純にこどもが好き



だからという理由で始めましたので、まだまだ未熟ですが、こどもたちに本の楽しさを解ってもらえるように、ボランティアの諸先輩方を見習いつつ、日々努力を重ねてまいりたいと思います。



まなびピアいばらき 2006 にパネルで参加



一階エントランスホールにおいてボランティア各分野の活動様子がカラーパネル展示されました。



期間中展示をみた人達から下記の意見が寄せられました。

1. 展示発表をご覧になったの感想

古文書のデータベース化など、データを上手に活用し、地域研究に役立っているのは素晴らしい。

子供向けの読み聞かせだけでなく(代読サービス)は全国でも広がってほしい。

多岐にわたるボランティアの人々の活動にとっても関心をもちました。

2. 図書館内見学、および図書修理体験会についての感想

今回は参加できなかったが、機会があれば参加してみたい。

3. その他、県立図書館ボランティア活動についてのご意見、ご感想がありますか。

多くの人々がボランティアとして様々な活動に積極的に参加することは非常に素晴らしいことだと思います。

是非継続してほしいです。

今後も活動に力を入れてください。応援しています。

〔広報 金澤 鈴枝〕

いばらき読書フェスティバル2006



コーヒーの香り流れて



10月29日あいにくの雨の中「いばらき読書フェスティバル2006」が開かれました。

三の丸広場では、恒例の県立図書館ボランティアによる喫茶コーナーも開店し、淹れたてのコーヒーを、サービスいたしました。図書館入り口の特別に良い場所にテントを張りお客様のおいでをお待ちしておりましたが、古本フリーマーケットの出店も雨のためか少ないこともあり、客足も湿りがちでした。

いろいろなアクシデントもあり早々に店じまいになりましたが、ボランティアや図書館普及課の方々のご協力で無事に閉店することができました。有難うございました。

収支決算

売り上げ代金 18,800円

材料仕入れ代金 15,304円

差し引き 18,800円 - 15,304円 = 3,496円
をボランティア協議会の会計に繰り入れたことを報告いたします。

〔広報 土屋 純子〕



折り紙教室 10月29日

講師 八田 三郎氏



3階大会議室は満員、ほとんどがママとこどもたち、何人かのパパも存在。四角に配置のテーブルには沢山の折り紙が散らばっていて、早々からわいわいがやがやと賑わっていた。

さて、講習が始まったが、84歳の老先生の声は細く、指導の指先は最前列のテーブルのこどもたちにしか見えない。したがってほとんどの参加者は勝手に折り紙で遊ぶ有様で、これでは教室とは言えない状況となっていた。

至急、折り紙の知識を持つ図書館女子職員の招集を図ってもらったが、いかにも泥縄の対処に過ぎなかった。そこで、次の対策として、図書館職員に「おおきなスクリーンを設置し、先生がマイクを用いて説明しなければ、講師にも参加したこども達に

も、気の毒だし、失礼だ」と私が提言した。しかしながら、スクリーンの設置、マイクの手配ができたときには、残る時間は少なかった。

講師が製作見本に持参された、「こま」、「親子鶴」の作り方を覚えることの出来た受講者は100人程の参加者中10%はいたのだろうか。今後とも折り紙教室の開催をぜひと願う私だが、講習方法、行程がおおきな課題と考える。すなわち、スクリーンの配備、各テーブルごとにひとりずつのアシスタント（八田講師からの指導体験者、事前教育受講者）の配置により、参加した親子が喜んで帰宅するような教室になってほしいと望む私である。

〔広報 上條 哲〕



ボランティアの喜びを気付かせてくれた見学会



＊ ＊ 11月18日 「レイク・エコー」を訪ねる ＊ ＊

昨秋11月18日(土)、図書館ボランティア見学会に参加しました。残念ながら大型バスに18名と少ない人数の参加でしたが、



車中では自己紹介などをしながらなごやかな雰囲気でも過ごし、午前10時には行方市にある白浜少年自然の家に着きました。早速指導員の方のお話を聞き「うどんづくり」に挑戦しました。みんなで粉をこねたり、踏んだり、のばしたりしてやっとできたうどんのおいしかったこと!!・・・炭火で煮込んだけんちん汁の味も最高でした。いろいろを囲んで参加者同士の話はずみ、心も体も温まりました。

午後は、すぐ近くに北浦が見える高台の眺めのいい隣接の「レイク・エコー」の建物に移動しました。施設は、建築して20年経過しているとのことでしたが、県南地域にこのような立派な施設があることを、参加者のほとんどの方が知らなかったようでした。「レイク・エコー」では、6名のボランティアの方々が心をこめて迎えてくださり、館内を懇切丁寧にご案内くださいました。また、その後研修室において、お互いの活動の様子をそれぞれプロジェクターの映写により紹介し合い、3つの分散会に

分かれ、有意義な話し合いもできました。

帰りの車中でも、1人ずつ感想を述べ合いましたが、参加者の皆さんが何かを感じ刺激を受け、今後の図書館ボランティア活動に生かしたいという意気込みが感じられました。県立図書館において、自分の生き甲斐としてできる今のボランティア活動に、改めて喜びと感謝する気持ちを気付かせてくれた今回の見学会でした。力を込めて打った手打ちうどんと共に忘れられない体験学習になりました。ただ、最初に述べたように参加された方が少なかったことが真に残念でした。

今後の見学会の実施についてご意見ご希望をお聞きしたいと存じます。県立図書館3階ボランティア室に、

ボランティアの声

のポストが備えてありますので、あなたのご意見ご希望を記入の上、ポストにお入れくだされば幸いです。

多くの皆様からの声をお待ちしています。

- 用紙も備えてあります。

- 匿名・記名どちらでも結構です。

〔ボランティア協議会 副会長 西村 洋子〕



水戸西ロータリークラブからの支援金の使途

～ 支援金について理解を深めましょう ～

昨年8月、水戸西ロータリークラブから、一昨年に引き続き支援金をいただきました。

支援金は、100,000円で、これは前回の2倍の額です。

昨年10月14日(土) ボランティア協議会(正副委員長と普及課職員とで構成している協議会)において、支援金の使途について協議が行われました。

支援金を活用して、ボランティア活動を充実しようと、3つのボランティア分野から要望が出され、支援金の使途が次のように決まりました。

代読サービスボランティア

自主研修用講師謝礼として 40,000円

児童サービスボランティア

自主研修用講師謝礼として 20,000円

広報ボランティア

取材用デジタルカメラ購入費として 30,000円

(ただし、全部のボランティア分野で利用できません。詳しくは、デジカメのご利用案内の欄をご覧ください。)

残金10,000円については、後日その使途を検討することになりました。

本来、支援金は、幅広く多くのボランティア分野で活用されなければ意味がありません。特定の分野ばかりでなく、他の分野からも、支援金配分の要望がほしいと思います。

また、支援金を交付されたボランティア分野においては、支援金を得たことによる成果を、ボランティア協議会会長あて、文書で提出することになりました。これが、次回の支援金をいただくための説明資料になるからです。

〔広報 黒沢 英宣〕

《お知らせ》

デジカメのご利用案内

～ ボランティア活動の中で積極的にご利用ください ～

1. 品名 カシオ「液晶デジカメ【エクシリムEX-Z700】」
2. 画素数 720万画素
3. 保存可能 (標準)150枚
4. SDメモリーカード使用(512MB)

ご使用前に、お貸しする説明プリント(抜粋)をご覧ください。

《お願い》

ご使用になる方は、使用日の2日前までに、保管責任者である広報ボランティア委員長 黒沢(029-241-2668)までご連絡ください。

(付属品一式もお貸しします。)



ボランティアの声



ボランティア室に設置した投書箱に寄せられた皆様の声と回答です。

年間行事のボランティア見学会は例年、参加者が非常に少ないのは何故でしょうか。目的が定かでないことも原因と思います。本当に見学会は必要な行事なのでしょうか。原点に立ち返って検討する時だと考えます。

(匿名)

多くのボランティアの方々の声を集めて、ボランティア協議会に報告します。詳細は4ページをご覧ください。

(広報ボランティア)

私達のボランティア活動に対する図書館職員の方々の声もお聞きしたい。ボランティアとの対話を濃密にしていきたい。

(匿名)

いつもお世話になっております！ボランティアの皆様には、分野毎の活動だけでなく、イベントの際にも力を貸していただき、感謝しております。ボランティア活動について何かありましたら、担当職員までお願いいたします。

(普及課)



パソコン教室で勉強しよう



ボランティア活動にご精励の皆さん。パソコンの知識、技術習得はお済みですか。これから、やってみようと望まれる方は、図書館内でひととき、勉強しませんか。

講師はボランティア仲間・福田 陽一さん。初心者、少々の経験者いづれにも、ぴったりとマン・ツー・マンで指導いただけます。

教室会場はボランティア控え室、時間はAM 10:00 - 12:00、教習日は原則・木曜日ですが貴方と講師の調整により、他の日にも可能です。

詳しくは図書館普及課の廣原さんまでご一報ください。パソコンはなんと言っても便利です。早めの習得をお勧めします。

〔広報 上條 哲・七十歳からパソコンを習いました〕

編集後記

年も明け、皆様は各ボランティア分野でご活躍のことと思います。異常気象に加え、陰惨な事件が頻発し、地球規模で異常方向に進んで行くのかと思える状況です。

そんな中、せめてもボランティア活動は明るく、楽しくをモットーに続けられたらと願わずにはられません。お互いに切磋琢磨する一年といたしましょう。



〔吉田 妃佐子〕